令和6 年度　〔　情　報　科　〕シラバス

北海道北見緑陵高等学校

教科	科目	単位数	種別	年次	
情報	情報Ⅰ	2	必修科目	1年	
使用教科書	最新情報Ⅰ（実教出版）			担当者	

学習目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
学習方法	授業では主にパソコンを使用し、活用能力を養う。 教科書の内容を中心に、身近な内容・最新の情報を取り入れる。

学習評価

育成を目指す資質・能力		育成を目指す資質・能力の評価内容
1	基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
2	課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
3	情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
4	自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
5	主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
6	協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
7	自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
8	社会貢献（社会参画）	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。

以上の観点をふまえ、
「育成を目指す資質・能力」の8つの観点で学習の状況を総合的に評価します。
単元テストの成績、課題やレポート、小テスト等への取り組み状況、授業への参加態度などから総合的に評価します。

担当者から

授業では主にパソコンを使用し、活用能力を養う。
教科書の内容を中心に、身近な内容・最新の情報を取り入れる。

月	大単元	単元（題材）	学習内容	重点評価事項(資質・能力) 1	2	3	4	5	6	7	8	単元（題材）の評価規準 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価方法
4	情報社会の問題解決	情報を活用した問題を発見し・解決する方法	情報社会の問題点を考え表現することを通して、問題を発見、解決するために何が必要かを考え、問題の明確化を行うことができるようにする。	○	○						○	情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付け、情報に関する法律や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解している。	目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考え、情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察している。	情報社会の問題を発見することを通じて、より広く深い学びに取り組み、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。	単元テスト 実習・観察 小テスト レポート などにより評価する。
5		情報社会における個人の責任	情報に関する法・制度、情報セキュリティの重要性を、情報技術の発達と社会の影響の側面から科学的にとらえ考察できるようにする。			○				○	○				
6		望ましい情報社会の構築	情報技術が人や社会に及ぼす影響について理解できるようにする。		○			○			○				
8	コミュニケーションと情報デザイン	情報デザイン	グラフィックソフト等でコンテンツを作成することを通じて、情報デザインの考え方を理解し、その方法を身に付けられるようにする。	○		○	○					情報デザインの考え方を理解し、デザインの方法を身に付け、コンテンツ制作の一連の過程について理解している。	目的や受け手の状況に応じた情報デザインを考え、コンテンツの設計、制作、実行、評価、改善ができる。	コミュニケーションの目的や伝える情報を明確にしようと粘り強く取り組もうとしている。	
10		コンテンツの制作・評価・改善	製作した作品を統合し、作品の改善について具体的な方法を考える事を通して、コンテンツの改善に努め、作品の自己評価や相互評価を行う。				○	○	○						
11	コンピュータとプログラミング	アルゴリズムとプログラミング	アルゴリズムをフローチャートで表現し、関数及び配列においても理解し、身の回りの簡単な問題についてコンピュータを活用する。	○		○	○					アルゴリズムをフローチャートやアクティビティ図等で表現する力を身に付け、シュミレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解している。	プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用し、その過程を評価し改善することができる。	問題の発見・解決にコンピュータを積極的に活用としている。	
12		モデル化とシミュレーション	モデルの意味や種類を理解するとともに、状態をモデル化して表現する方法を身に付けられるようにする。		○	○		○							
2	情報通信とネットワークとデータの活用	データの活用	データを整理、変換する必要性及び、基本的な分析及び可視化の方法を理解する。	○			○	○				データを問題の発見・解決に活用する為に、データを収集、整理、分析する一連のデータ処理の流れ及び、データの特徴を示す指標と、その評価について理解している。	データの傾向に関して評価するために、客観的な指標を基に判断し、自身の考えを基にした適切な解釈を行うことができる。	問題の発見・解決にデータを活用するために、適切なデータの選択や、分析の仕方、解釈の仕方について、試行錯誤を通じて改善しようとしている。	